

# 自慢のどぶろくと、 里のあたたかさに 酔いたい。

清流四十十川の支流中筋川流域にある高知県の三原村は、日本の里景色をそのまま伝えるやさしい村だ。水と風の音が静かに流れ、のどかな田園風景が広がるどぶろく特区の村を訪ねよう。



高知県の西部に位置する三原村は、人口約1,500人の村だ。ここにはスーパーもコンビニもない。その代わり、愛する村を盛り上げたり、助け合ったり、郷土愛とあたたかさにあふれている。

たとえば「三原村星ヶ丘公園」は、絶滅危惧種とされるヒメノボタンを育て残そうと、野草の郷を手間ひまかけて一からつくりあげたもの。地区拠点を担う三原村集落活動センターの「やまびこカフェ」は、地元で働く人のニーズに対応したもののだが、現在では村外からのリピーターも多く年間1万人以上の利用者がいる。

そんな三原村が、濁酒特区に平成16年に認定された。昔からうまい米どころとして知られ、かつては家々でもどぶろく造りが盛んだった伝統を復活させている。いま、村内の6軒が農家仕事のかたわら民宿や食堂を営み、丹精込めて育てた三原米をこつこつ手作業でそれぞれの味のどぶろくに仕上げ、地元食材を使った料理とともに旅行者をもてなしている。

日本の原景とあたたかい心に出会う三原村。じんわり体に浸みこむどぶろくのように、心地よい気分が満たしてくれる。



農家民宿は、お通路さんの宿としても人気だ。看板を目印に行こう。

## ドライブで行きたいオススメ立ち寄りスポット



**中筋川ダム**  
宿毛市から三原村に入る道沿いにある。公園が整備されており、壮大なダムの威容と美しい蜚湖の景観が楽しめる。飛来する野鳥のウォッチングや夏のホテル観賞で人気が高い。

☎ 0880-66-2501 (中筋ダム管理庁舎)  
📍 宿毛市平田町黒川字櫛ヶ地山5312-48



**三原村星ヶ丘公園 (ヒメノボタンの里)**  
春はオキナソウにツツジ、夏はヒメユリにアジサイ、秋はフレモコウにヒガンバナ、冬もヤマハシヨウツルなどが咲く。なかでも見事なスイレン池やピンクや白の可憐な花を咲かす秋のヒメノボタンは感動だ。

☎ 0880-46-2437 (三原村商工会)  
📍 三原村宮ノ川11271-38  
P有



**やまびこカフェ**  
村内の各地域のグループが工夫を凝らし、地元食材でつくった日替わり定食が楽しめる。日用品と地元の特産品を集めた「みはらのじまんや」や三原村集落活動センターが隣接。

☎ 0880-31-7839  
📍 三原村宮ノ川11130  
🕒 9:00~16:00 (ランチは11:30~13:30) 土日祝定休



6種のどぶろく。全国発送も行っている。

- 左から
- 「嫁っこ桂」(農家食堂 森本まる)
  - 「富岳」(農家食堂 風車)
  - 「川平郷」(農家食堂 つの)
  - 「こぼれ雪」(農家喫茶 くらうさぎ)
  - 「椿姫の伝説」(農家レストラン 今ちゃん)
  - 「元代」(農家食堂 青空屋)

☎ 0880-46-2681 (土佐三原どぶろく合同会社)



※ボトル・ラベルデザインは変更される場合がある。

**里人トーク 「もっと三原の良さを知って欲しい」**

ここは昔からおいしいお米が有名で、どぶろくづくりの文化もありました。平成16年にどぶろく特区になり、おかみさん連中がそれをみんなに楽しんでもらおうと食堂や民宿をはじめました。どぶろくづくりは、ひと樽ひと樽気が抜けませんが、がんばっていききたいですね。

森本 文さん (農家食堂森本まる女将)



**DRIVE DATA**

- 大阪・神戸方面から「明石海峡大橋」「大鳴門橋」利用
- 広島・岡山方面から「瀬戸大橋」又は「しまなみ海道」利用

**INFORMATION**

- 三原村役場(地域振興課) ☎ 0880-46-2111

**里の町おこしCOLUM**

濁酒特区は、四国、瀬戸内のもうひとつの旅の楽しみ。

平成14年の行政構造改革でスタートした特区制度で、日本各地にさまざまな特区が誕生した。平成16年に「濁酒特区」になった三原村のほかにも、地域の名物を生かした町おこしを行うところが、四国と瀬戸内には数多くある。どぶろくだけでも、岡山県の「うまし国濁酒特区」、広島県の備後国大田庄、徳島県の「上勝町まるごとエコツアー特区」、香川県の「結願の里多和どぶろく特区」など、ほかにも愛媛県、高知県でも産品を生かしたどぶろくづくりが行われている。土地土地の酔い心地を味わうのも旅の楽しみだ。

# 三原

みはら

【高知県幡多郡三原村】

●三原村は山あいのにどかな田園地帯が広がる。